

「みんなでつくる『あったか京都』指針（京都府ユニバーサルデザイン推進指針）
中間案」に対するパブリックコメントの要旨及びこれに対する府の考え方について

	意見の要旨	府の考え方
1	検討懇話会に当事者が参加しているか。 専門家の意見は必要かもしれないが、一番わかるのは当事者である。	今回の懇話会委員には、幅広い分野から就任 いただいております。福祉分野からもその分野で 活躍されている方に御参加いただきました。 また、「京都府福祉のまちづくり推進協議会」 の構成団体に意見を照会するとともに、関係 団体を通じてアンケートを実施しました。 今後、いただいた意見を参考にするとともに、 引き続き当事者の方々の意見をお聞きしなが ら、指針をより良いものにしてまいります。
2	今回の懇話会委員が学者や団体代表だけ のような感じがする。「当事者抜きで決め ていないか」との不安がある。	
3	現在「指針」として検討されているが、 ユニバーサルデザインは、幅広い分野に わたる非常に重要な考え方であるので、 「条例」として府政全体を律するもの にしてはどうか。	今後の京都府の施策推進の理念となる「基本 条例」を検討しているところであり、ユニバ ーサルデザインの考えも盛り込みながら進め たいと考えています。
4	次の表現について修正してはどうか。 ・「高齢者を思いやった」 →「高齢者に配慮した」 ・「多目的トイレ」→「多機能トイレ」	御指摘のとおり修正します。
5	基本的な視点に「一番困難を抱えた人の 視点に立つ（顧客目線）」というような言 葉があれば良いと思う。また、「主体ご との取組」に「まず当事者の意見を聞こう」 などの言葉が入ると良いと思う。	全ての方に配慮する「ユニバーサル社会」の 実現を目指していますので、御意見のありま した表現はしませんが、十分に配慮し、意見 を聞きながら、ユニバーサルデザインの視点 に立った施策を推進してまいりたいと考えて います。
6	「市町村への期待」の中に「住民の積極 的な参画を得たユニバーサルデザインに 配慮したまちづくり」を考えてほしい。	府政の推進には多くの府民の参画を得るよう 努めることが重要と考えていますので、市 町村とも協力し、ユニバーサルデザインに 配慮したまちづくりを進めてまいります。
7	「NPOへの期待」について、この分野 でのNPOの実績はどうか。地道な取組 をしていたら、もう少し本文で評価した 方が良いのではないか。	「NPO等への期待」については、NPO法 人格の有無に関わりなく、自主的な活動を されている民間団体を想定して記載してい ます。御意見のように、福祉団体やボラン ティア組織は様々な取組をいただいております。 活動を紹介したいところですが、指針では割 愛いたしました。活動の紹介などについては、 今後検討してまいりたいと考えます。
8	生涯教育研究と新東山文化創生の事業推 進の立場から次の点を提案します。 ・モデル地区を選定して、具体的な研究 と企画を進めること。 ・バリアフリーに留まらず、京都らしい “心のなごみ”を感じさせる設備・機 器を開発されること。 ・ユビキタス導入を検討されたいが、眼 でも確認できるような定型プレートな ども統一的に掲示されたい。	御提案いただきました内容につきましては、 今後具体的な取組を検討する中で、検討して まいりたいと考えます。